

## 韓国語動詞の分類

金 玉英

### 1 はじめに

アスペクトを論じる際、動詞の性質は重要な役割を果たしている。

日本語の動詞の場合、「-ている」という形式により、動詞のアスペク的な性質が具現されており、韓国語の動詞の場合は、「-고 있다」「-어(아) 있다/-었다(았다) (以下「-어 있다」にする)」がこれに対応する。

日本語と韓国語は、語彙レベル、語用レベル等では相当違いを見せているが、文法レベルでは非常に似ているため、日本語の動詞分類の方法は、韓国語にもあてはまるとおもわれる。

本稿の目的は、韓国語動詞のアスペクトを解明し、なお日本語と韓国語の動詞のアスペクトを対照するためである。

方法としては、「-고 있다」「-어 있다」というアスペクト形式をもって、

- 1) 両形とも付かないもの
- 2) 「-고 있다」形のみ付くもの
- 3) 「-어 있다」形のみ付くもの
- 4) 両形とも付くもの

に分けて行ない、それぞれの形式の表わすアスペクトと意味とを考察する。

なお、動詞の性質の違いで現われるアスペクトではなく、上記の 2) 3) 4) に属する動詞類に付き、特殊な場面での一アスペクトを表わす「-었(았)었다(以下「-었었다」にする)」という形式についても触れることにする。この動詞分類の方法は、草薙 (1983) のモデルを参考にする。

資料は、主に日常生活に必要な動詞類が載っており、量的に限定されていると思われる小学生用の国語辞典『국민학교 새 국어사전(小学校新国語辞典)』の動詞を対象にした。

韓国語の動詞と「-고 있다」「-어 있다」との結び付きの判別は筆者の主観で行なうことにするが、判別が曖昧なもの場合は、幾人かの韓国人のインフォーマント<sup>1</sup>に聞くこと

<sup>1</sup> 日本語学専攻者の安善柱氏、吳珠熙氏 日本語学非専攻者の金明氏、李綱来氏

にする。

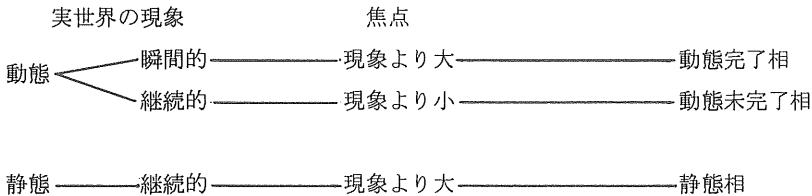
## 2 アスペクトの定義

草薙 (1983) は、アスペクトの意味を形式化するため、実世界の現象レベルと認知レベルと言語レベルとを立てている。

1) 実世界の現象を、何か起こる出来事として認知されるもので内的な変化が考えられる「動態」と、出来事としてではなく、存在として認知される現象で、それが続いている間は内的に変化のないものである「静態」とにわけらる。

2) 認知レベルの概念としては、時の流れのどの時点に話者の注意が向けられているかという「焦点」を導入する。

3) 現実の世界の現象の存在に時間的長さがあるかどうかは問題ではなく、現象全体が焦点の中に入っているかどうか、つまり現象を全体として認知するか、部分的に認知するかで動態完了相と動態未完了相になる。従って実際の言語表現の形はここで決まるといい、これを次のようにまとめている。



アスペクトは、言語主体が現象を静態と認識するか動態と認識するかという判別から始まる。動態現象の場合は、現象を全体と見るか部分とみるかという焦点の置き方の違いである。つまり、実世界の現象の全体に話者の焦点が当てられるのか部分に当てられるのかということである。静態現象の場合は静態相になり、動態現象の場合は話者の焦点が現象全体に向けられる時は動態完了相、静態相に、部分に向けられる時は動態未完了相になる。動詞の極く一部を占めている (金田一 (1950) の状態動詞に当たるもの) 静態動詞は静態相のみ表わし、動態動詞は動態完了相、動態未完了相、静態相を表わすことができる。

### 3 動詞分類

#### 3.1 「-고 있다」「-어 있다」の両形とも付かない動詞

##### 3.1.1 存在動詞

「있다 (いる、ある)」「계시다 (いらっしゃる)」という二つの動詞のみであり、常に「-하다」という形で「存在している状態」を表す。韓国語のアスペクト形式の「-고 있다」「-어 있다」という両形とも取ることのできない動詞類である。動詞自体に「-ている」という意味が内在しており、アスペクトを表す諸形式を持たないことを特徴としている。存在の意味を表わす動詞のみなので、「存在動詞」と名付けたい。存在動詞は常に静態相を表わす。

日本語の「できる」「大きすぎる」など、存在の意味を表わす動詞以外の「状態動詞」は、韓国語では一個の動詞だけでは表現できなく、品詞が変わってくるので、動詞としては扱わない footnote 日本語の「できる」という動詞に対応する韓国語はなく、「～することができる」という形でしかあわせない。なお、「大きすぎる」という動詞は、韓国語では「너무(지나치게)크다 (あまり大きい)」という「副詞+形容詞」という形態に変わってしまうので、存在の意味を表す動詞以外の日本語の状態動詞は、韓国語では一つの動詞として扱うことはできなくなる。。

#### 3.2 「-고 있다」形のみつく動詞

##### 3.2.1 経過動詞

(1) 강아지는 우리가 집에서 기르고 있습니다.(나)

(犬は私たちが家でよく飼っています。)

(2) 엄마제비와 아기제비가 다정하게 이야기하고 있습니다.(나)

(お母さんのつばめと赤ちゃんのつばめが仲よく話しています。)

上記の例の「기르다 (飼う)」「이야기하다 (話す)」のように「-고 있다」形で動態未完了相を表わす動詞である。「-고 있다」形のみを取ることができ、「-고 있다」形になると、それらの動作、作用が進行中であることを意味する。これらの動詞は、それぞれの動作、作用を表すのに、時間を要するものであり、話者の焦点は、動態の一部に向けられることになるので、動態未完了相を表すことになるのである。

만들다 (作る) 배우다 (習う、学ぶ) 마시다 (飲む) 먹다 (食べる) 보다 (見る) 부르다 (呼ぶ) 밀다 (押す) 웃다 (笑う) 움직이다 (動く) 불다 (吹く) 等、これに属する動詞は最も数が多い。

極く一部の自然現象、生理現象等を表わす動詞は、自動詞で無意志動詞であるが、ほとんどの経過動詞は、他動詞で意志動詞である傾向が強い。

### 3.2.2 持続動詞

(3) 오늘 영수는 빨간 셔츠를 입고 있다.

(きょうヨンスは赤いシャツを着ている。)

(4) 노래를 잘 부르는 어린이, 운동을 잘 하는 어린이, 그림을 잘 그리는 어린이, 용변을 잘 하는 어린이, 붓글씨를 잘 쓰는 어린이등 여러가지 재주를 가지고 있습니다.(나)

(歌が上手な子供、運動がよくできる子供、絵が上手な子供、雄弁が上手な子供、習字が上手な子供など、いろいろな才能を持っています。)

上記の例の「입다 (着る)」「갖다 (持つ)」のように、「経過動詞」と同様に「-고 있다」形で静態相を表わす動詞である。動作主体の動作が、動作主体の一部または全体で接触する動作を表わす接触動詞とも言うべき動詞類である。

これらの動詞は経過動詞的な性質も持ちうるが、いわゆる瞬間動詞的な性質が強いというものである。つまり「입다 (着る)」という動詞は、「服を身に付けるための動作」を表わすこともできるが、「服を身に付けた状態」を表わすことが中心的な役割であるように言われている。

筆者は後者の意味を「服を身に付けた状態」を表わすものではなく、後述のように「服を身に付けた状態を保ち続ける」ことを表わすものであるとおもう。

これらの動詞は「-고 있다」というアスペクトの一形式で二つの動作を表わすことに特徴があるものである。

前者の場合は、動作主体の動作そのもの(動き)を表わすものであり、これは進行中のことを表す。後者の場合は、動作主体の動作によりある状態を作り、その状態を保ち続けること(状態保持)、つまり持続を表わす。

ここでいう状態保持とは、変化動詞による、いわゆる結果の状態とは違って、動作主の意志によるものである。

(5) 田中さんはエア毛布を發明している。

(6) 芳子さんは高価な着物を着ている。

(5)の「發明している」は、「發明する」という動態現象が起こり、發明した状態になっていることを表わす。

反面、(6)の「着ている」は、「着る」という動作を行なった状態にしていることを表わし、「着ている」という「状態保持」は動作主体の意志で保たれているものである。

従って、これは下記の例のように普通の経過動詞と同じく、動作主体の意志で、ある時間内続けることを表わせるのであるが、いわゆる結果の状態を表わす変化動詞は、特別な場面を作らない限り、ある時間内結果の状態を保持することはできないのである。

(7) 芳子さんは着物を二時間着ている。(持続動詞)

(8) 芳子さんは本を二時間読んでいる。(経過動詞)

(9) \*芳子さんはエア毛布を二時間発明している。(変化動詞)

(7)の「着ている」と(8)の「読んでいる」の場合は、動作主体の意志で「状態保持」、「進行中」のことをあらわしているか、(9)の「発明している」の場合は、特殊な場面が設定されていない限り、動作主体の意志で状態を保ちつづけることは考えられない。

なお、下記の例のように、(7)と(8)は、動作主体の意志が働いているため、命令形にしてもすわりがよいが、(8)の場合は、動作主体の意志が働いていないため、命令形を取ることができない。

(10) 芳子さんは着物を二時間着ている。

(11) 芳子さんは本を二時間読んでいる。

(12) \*芳子さんはエア毛布を二時間発明している。

日本語の「知る」動詞は変化動詞に属するが、これに対応する韓国語の「알다」<sup>2</sup>は、

(13) 군호는 영희를 알고 있다.

(クンホはヨンヒを知っている)

のように「-고 있다」形を取り、持続動詞になる。

自動詞であり、無意志動詞で表わす結果の状態とは違って、持続動詞に属する動詞は、すべて他動詞であり、「知る」「面する」等の極く一部の動詞を除けば、意志動詞である。

쓰다 (かぶる) 변장하다 (変装する) 복면하다 (覆面する) 뒤덮다 (覆う) 매다 (締める) 들다 (手に持つ) 이다 (頭に載せる) 안다 (抱く) 等のような動詞類がこれに属する。

「-고 있다」形を取る「経過動詞」「持続動詞」は、「進行中」「状態保持」という意味を表わし、動態未完了相と静態相を表わす。

<sup>2</sup>韓国語の「알다」は、日本語の「知る」と「わかる」という二つの動詞に対応しているが、ここでは、「知る」に対応する意味のみを対象にする。

### 3.3 「-어 있다」形のみつく動詞

#### 3.3.1 変化動詞

(14) 부채 속에는 바람이 잠들어 있다. (눈)

(扇の中には風が眠っている。)

(15) 빈 집에 여자가 죽어 있다.

(空き家に女の人が死んでいる。)

上記の例の「잠들다 (眠る)」「죽다 (死ぬ)」のように、「-어 있다」形で静態相を表わす動詞である。つまり、「-어 있다」形のみを取り、「-어 있다」形になると、それらの動作・作用が終わっていることを表す。これらの動詞は、それぞれの動作・作用を表すのに、ほんの一瞬だけを必要とするものである。話者の焦点は、動態全部に向けられることになり、「眠る」「死ぬ」等の動態が完了した状態である静態相を表すことになる。日本語の変化動詞の一部がこれに該当し、正に瞬間的な現象だけを表わす動詞だけに絞られるので、これに属する動詞の数は少ない。

なお、変化動詞に属する動詞の一部に

(16) 민수는 이미 결혼했다.

(ミンスはすでに結婚している。)

の「결혼하다 (結婚する)」のように、「-었다」形で静態相を表わす動詞がある。

変化動詞のように、それぞれの動作・作用を表すのに、ほんの瞬間的な時間だけを必要とする動詞であるが、「-어 있다」形の代わりに「-어 있다」の縮約形と思われる「-었다」形のみを取りうる動詞類である。<sup>3</sup>

これらは、金田一(1950)の言う「動作・作用を表す動詞の中には、その動作・作用が何時初まって何時終わったか分からないが、何時の間にか終わっていて現在「-ている最中だ」ということのできないものがある」と指摘している類の動詞である。

変化動詞と同じくある瞬間に動作・作用が行なわれ、動態完了相になっているが、ただその瞬間をつかむことができないことに特徴があるようである。

このような動詞類は「-어 있다」形ではなく、「-었다」<sup>4</sup>という形を取ることが特徴である

<sup>3</sup>李(1990)は、これを「完了動詞」にしている。

<sup>4</sup>韓国語は動詞の語尾と形容詞の語尾とが両方とも「-다」であり、過去を表す「-었다」と一部の動詞に「-어 있다」形の代わりに付き、静態相を表す「-었다」とが同形であるため、紛らわしい場合がある。ここで扱う「-었다」形は、静態相を表すもので、「-어 있다」形の縮約形であると思われるものに限られる。「-어 있다」形を取るか、「-었다」形を取るかという選択は、話者の時間的、視覚的な認識が可能かどうかで決まるものと思われる。これは純粋なアスペクトの問題ではなく、話者が事柄をどう取るかというモダリティの問題と関わってくるため、ここでは触れないことにする。

が、「-있다」形を取っても変化動詞と同じく静態相を表すので、変化動詞の中に入れるべきであると考える。「-있다」形を取る動詞のほとんどは、「漢語名詞+하다(する)」という形態をしている漢語動詞である。

以上の変化動詞に属する動詞は、달다(つく、届く) 귀익다(耳慣れる) 배다(染み込む、身に付く) 돋다(生える) 숨지다(息が絶える) 가느귀먹다(耳が少し遠くなる) 쇠다(葉や茎が固くなる) 개교하다(開校する) 개통하다(開通する) 나이가 들다(年を取る) 마감하다(締め切る) 성공하다(成功する) 사망하다(死亡する) 망하다(滅びる) 방학하다(学校が休みになる) 발견하다(発見する)等がある。

### 3.4 「-고 있다」「-어 있다」の両形とも付く動詞

#### 3.4.1 変化・経過動詞

- (17) 쓰레기가 너무 많아서 주변이 더러워지고 있습니다. (민)  
(ごみがありすぎて、周りが汚れつつあります。)
- (18) 그런데 이 대기가 이미 사람과 자연을 위협할 만큼 더러워져 있습니다. (민)  
(ところが、この大気がすでに人間と自然を脅かすほど汚れている。)
- (19) 봄이 오고 있구나. ( 눈)  
(春が来つつある。)
- (20) 영수는 학교에 와 있다.  
(ヨンスは学校に来ている。)
- (21) 문장이 점점 길어지면서 자세한 표현이 되고 있습니다. ( 나)  
(文章がだんだん長くなり、細かい表現になりつつあります。)
- (22) 인기 가수였던 영아씨가 중학교 영어 교사가 되어 있다.  
(アイドル歌手だったヨンアさんが中学校の英語の教師になっている。)

上記の「더러워지다(汚れる)」「오다(来る)」「되다(なる)」のような動詞は、「-고 있다」「-어 있다」の両形を持つことができ、「-고 있다」形で動態未完了相を、「-어 있다」形で静態相を表わす。これらの動詞はアスペクト形式を二つとも取りうることが特徴である。すべて自動詞であり、移動を表わすいくつかの動詞以外は、無意志動詞である。

これは、金田一(1950)の日本語の動詞の分類の中で「第二の継続動詞と第三の瞬間動詞とにまたがるものは殊に多く、例えば所謂場所の移動を表す動詞は総てこの二類の動詞を兼ねている」という指摘に当たる動詞である。

「-고 있다」形を取り、経過動詞と同じように動態未完了相を表し、「-어 있다」形を取り、変化動詞と同じように、静態相を表わす。

例えば「ㄷ떨어지다 (落ちる)」という動詞は、木の葉が木の枝を離れて地上に着く直前までの時間的な幅を表すこともでき、また地上に届く瞬間だけを表すこともできる。従って

(23) 나뭇잎이 ㄷ떨어지고 있다.  
(木の葉が落ちつつある。)

(24) 나뭇잎이 ㄷ떨어져 있다.  
(木の葉が落ちている。)

のように、「-고 있다」形で前者の意味を、「-어 있다」形で後者の意味を表わすことになる。

日本語の変化動詞の中に分類されているもののうち多くのものがこれらの動詞の「-어 있다」形と対応している。

変化動詞との違いは、変化動詞の方がほんの瞬間的な動作、作用を表すだけなのに、変化・経過動詞の方は、変化動詞のような瞬間的な動作、作用と経過動詞のような継続的な動作、作用の両方を表しうるところにある。しかし、実例の中から見ると、経過動詞のような働きよりは変化動詞のような働きの方が多いようであるし、経過動詞とは違って、変化動詞のように自動詞だけが属していることから変化動詞の方により近いと思い、変化・経過動詞と名付けることにする<sup>5</sup>。 맺히다 (涙・露が宿る) ㄱ기다 (霧がかかる) ㄷ더오르다 (浮かんでくる) 들러서다 (取り囲む) 뒤섞-이다 (ごちゃ混ぜになる) 뒤집히다 (ひっくり返る) 드러나다 (現われる、見つかる) ㄷ들리다 (穴があく) 부루이다 (実る、熟す) 벗겨지다 (脱げる、むける) 부서지다 (砕ける、壊れる) 삭다 (朽ちる、さびる) 묻히다 (埋もれる) 等のような動詞がこれに属する。

### 3.5 「-었었다」形が付く動詞

#### 3.5.1 継続動詞

いわゆる「経験」を表わす時、日本語の場合は、状態動詞を除くすべての動詞に「-ている」形がついて静態相を表わすことになるが、韓国語の場合は、アスペクト形式の「-고 있다」形か「-어 있다」形だけでは表わすことができない。日本語の「経験」に対応するのは「-었었다」という形態で、過去を表わす「-었」形と静態相を表わす「-어 있다」の縮約形の「-었다」形とが複合した形として現われる。

<sup>5</sup>草薙(1983)は、同じ動詞を、「子供が窓からのぞいている」のように、前者の場合は経過動詞に、後者の場合は変化動詞的になるとしているが、筆者は有生、無生の別では区別をしない。



- (25) 이영수씨는 사건이 난날 밤 친구 집에 묵었다.  
(イヨンスさんは、事件の夜、友達の家泊まっている。)
- (26) 영호는 세 번 결혼했다.  
(ヨンホは三回結婚している。)
- (27) 어렸을 때는 뒷마루에서 많이 떨어졌다.  
(子供の時はよく縁側から落ちている。)

(25)의 예가 経過動詞、(26)의 예가 変化動詞、(27)의 예가 変化経過動詞の場合である。存在動詞以外の動詞がいわゆる 経験を表わすという特殊な場面で現われる時の動詞である。

継続動詞で作る 静態相は、静態相を表わす 変化動詞、持続動詞類でも、動態未完了相を表わす 経過動詞類でも作ることができる。

日本語の場合は、「-ている」という一形態で 静態相も 動態未完了相も表わすので、場面を表わす 副詞等が伴わないかぎり、判別が付きにくい。韓国語の場合は、特定の形式を持っているため、場面を表わす 副詞等が伴わなくても、判別がつくことになる。

## 4 アスペクト形式の意味

### 4.1 「-고 있다」

「-고 있다」形は、経過動詞と 変化・経過動詞（経過動詞としての働きをする場合のみ）に付き、進行している意味を表し、持続動詞に付き、主体の意志で保ちつづける状態保持という意味を表す。

### 4.2 「-어 있다」

「-어 있다」形は、変化動詞と 変化・経過動詞（変化動詞としての働きをする場合のみ）に付き、無意志的な結果の状態であることを表す。

### 4.3 「-었었다」

「-었었다」形は、過去を表わす 「-었」形と、静態相を表わす 「-었다」形の複合した形であり、継続動詞の場合だけに用いられる。過去の動作、作用が話題になっている現在に 静態相となって現われることを表わす。

## 5 日本語の動詞分類（草薙）との対照

草薙（1983）は、日本語の動詞を「状態動詞」「経過動詞」「変化動詞」「経過・変化動詞」「瞬間動詞」「継続動詞」と六つに分けている。

状態動詞は、金田一(1950)の状態動詞に該当するもので、「-ている」形を取ることがなく、動詞そのものだけで静態相になるものである。

「経過動詞」は、「-ている」形がついて動態未完了相を表わすもので、何かの動きの記述そのものに用いられるような動詞であり、「変化動詞」は、「-ている」形がついて静態相を表わす動詞である。変化動詞の特質は、それが状態の変化という現象に対応していることで、その変化に動態の経過が対応しないものを行っている。

「経過・変化動詞」は、主体（有生か無生かという）により、同じ動詞が「経過動詞」にも「変化動詞」にもなる動詞類である。「瞬間動詞」は、「-ている」形が通常静態を表わすものであるが、動態未完了相を表わすこともできるものであり、「継続動詞」は、「-ている」形が通常動態未完了相を表わすものであるが、静態を表わすこともできるものを行っている。

筆者の「存在動詞」は「状態動詞」の一部に、「経過動詞」は「経過動詞」と「経過・変化動詞」とに、「変化動詞」は「変化動詞」の一部に、「持続動詞」も「変化動詞」の一部に、「変化・経過動詞」は「瞬間動詞」に、「継続動詞」は「継続動詞」に、該当する。

草薙の動詞分類は、コンピュータ言語学のための分類であるので、「変化・継続動詞」の動作の主体を「有生（動き）」か「無生」かで分け、前者に「-ている」形が付くと、動態未完了相を表わし、後者に「-ている」形が付くと、静態相を表わすが、筆者の分類では「有生（動き）」か「無生」かという区別をしないため、これらの動詞は「経過動詞」に入れることにしている。

これを表でまとめると次の通りである。

草 薙			金		
形態	現象	動詞別	動詞別	現象	形態
テイルが 付かない	静態	状態動詞	存在動詞	静態	고있다, 어 이다가付 かない
テイルが 付く	動態	経過動詞	持続動詞	動態	고있다가付 く
		経過・変化動詞	経過動詞		
	変化動詞	変化動詞	어있다가付 く		
	瞬間動詞	変化・経過動詞	고있다, 어 이다가付 く		
	継続動詞	継続動詞	있었다가付 く		

## 6 むすび

韓国語の動詞をアスペクトの観点から「-고있다」「-어있다」という形式を中心に分類した結果、静態を表わす「存在動詞」、動態表わす「経過動詞」・「持続動詞」・「変化動詞」・「変化・経過動詞」・「継続動詞」の六分類ができた。

「存在動詞」は動詞そのものだけで、「持続動詞」は「-고있다」形で、「変化動詞」は「-어있다」形で、「継続動詞」は「-있었다」形でそれぞれ静態相を表わす。「経過動詞」は「-고있다」形で動態未完了相を表わし、「変化・経過動詞」は「-어있다」形「-고있다」形の両形で静態相と動態未完了相を共に表わす。

分類の結果を表でまとめると次の通りである。

	○付く	×付かない	
動詞別\形態	「-고있다」	「-어있다」	アスペクト
存在動詞	×	×	静態相
経過動詞	○	×	動態未完了相
持続動詞	○	×	静態相
変化動詞	×	○	静態相
変化・経過動詞	○	○	静態相・動態未完了相
継続動詞	×	「-있었다」	静態相
\意味	継続中	結果の状態	

## 例文の出典

- (나) 박운택(1991) 『나도 글짓기를 할 수 있다』 대일출판사  
 (눈) 이동렬(1994) 『눈높이 글짓기교실』 대교출판  
 (민) 우리교육출판부 (1992) 『푸른 지구를 되살리는 민들레교실』 우리교육 동아출판사면  
 집국 『국민학교 새국어사전』 동아출판사

## 参 考 文 献

- 草薙裕 (1975) 「言語活動における認知作用－意味論における一仮説」『言語の科学』 6
- 草薙裕 (1983) 「テンス・アスペクトの文法と意味」『文法と意味I』 朝倉書店
- 金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」『言語研究』 15
- 李徳泳 (1990) 「アスペクトにおける日韓両言語の対照研究」『日本語教育』 72

## A Classification of Korean Verbs

Okyeong Kim

Korean verbs were classified under 4 types based on two aspect forms, namely *-goitta* and *-oitta*. Aspect types are as follows :

- (1) Verbs that do not cohere to either two forms ;
- (2) Verbs that cohere to *-goitta* only ;
- (3) Verbs that cohere to *-oitta* only ; and
- (4) Verbs that cohere to both forms.

Based on the result of this study, Korean verbs can be categorized in more detail as in the following 6 types of verbs : *SONZAI Verb*, *KEIKA Verb*, *JIZOKU Verb*, *HENKA Verb*, *HENKA-KEIKA Verb* and *KEIZOKU Verb*.